

「がんばろう、なとり」 No. 4

東日本大震災 名取市支援活動報告

2011.4.15

避難所を訪問していると、多くの方々が支援に関わっていることが見えてきます。

今日、訪問した避難所を例にすると、市の職員の方はもとより、秋田県の職員、保健師、自衛隊、警察、市民ボランティア、さらには、高校や大学、市民活動団体など、多くの方が避難所の受付、物資管理、健康管理、施設維持、炊き出し、子どもたちとの関わりなど、役割が定まっている活動や、自ら考えて実行することなど、さまざまな状況があります。

避難所で生活している方々は、日々の支援の輪が広がっていることに感謝されていますが、そろそろ、「今後の住む場所が決まらない」「高校生に進学する娘の学費をどう工面しようか・・・」「農業をやっていたが、畑は使いものにならず新たな仕事に就く年齢でもない・・・」など、命が助かり、厳しい環境ではありますが緊急的にでも衣食住が確保できてきた今、次の段階に進む時期がきていることが伺えました。



炊き出しをする地域の女性



心を癒す演奏会

「子どもたちと遊んじゃいました」

～ あっという間の1時間半 ～



子供達の話に耳を傾けながら

高館小学校避難所へ行きました。伝承あそびボランティア「おてだま」さんから提供していただいた遊具を持参し、小学生数人と一緒に遊んできました。

ひもを使って回すコマは初めてだという小学生もあり、最初は四苦八苦していましたが、すぐにコツをつかみ、「どっちが長く回しているか勝負！」など、周りの友達や私たちと工夫して楽しもうとする様子も見られました。明るい笑顔で活発な印象が感じられ、私たちも本気で遊んでしまいました。

しかし、「ランドセル流された人もいるんだよ。」「閉上（ゆりあげ）小、流されなくて良かった！」と被災した際の状況を、ふとした会話の中で発した時の子どもたちの表情から、内面に受けている大きな心の傷も感じられ、初日に名取市長から伺った内容が思い出され、今後の心のケアが必要であると痛感しました。



コマ回し名人発見！！



石狩から来ましたと説明

子どもと遊んでいる横で、横になっている方に話しかけてみると、我々が北海道から来たことを知り、妹が旭川なんだと親しくお話をしてくれました。最初は、寝たままで元気がなさそうでしたが、お話が進んでくると声にも力が増し、写真撮影をお願いしたところ起き上がってくれました。農業をされており、病気を克服し今年も頑張ろうと決めていたが、畑も家も流された・・・、と切ない心情をお聞きしました。

「支援物資をお届けしています」

石狩市から届いた大量のオムツや電池、ティッシュなどの支援物資は、名取市の災害本部にお渡ししましたが、一部の物資は、直接の要望を受け、直接お渡ししています。

例えば、避難所は、市やボランティアの皆さんだけで運営されているのではなく、被災された方々自らも役割を分担して生活しています。

その中で、女性が関わる時に必要なエプロンがほしいとの要望がありました。できれば、暗くなりがちな雰囲気明るくするカラフルな色がいいと・・・。お届けをしたら大変喜んでいただき、すぐ試着してくれました。

また、社会福祉協議会を通じ、精神薄弱者通所授産施設にも缶詰や水をお渡ししました。



喜んで試着してくれました



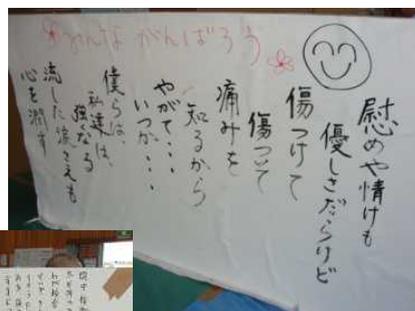
左から、名取市図書館長、社会福祉協議会会長

「図書館のお片づけ」

2階のメインサーバーがあるコンピュータ室の整頓を行いました。

この部屋もロッカーが倒れたり書類が散乱するなど、大きな揺れの影響をまともに受けた状況が伺えました。

作業は、比較的順調に進み、短時間で元の状態になりました。



避難所で隣同士の敷居に立てられた段ボールには、学校の校歌なども書かれています

編集後記

たくさんの方とお話をさせてもらう機会をいただいています。そんな中、子どもたちはいつも私たちに元気をくれます。こちらに来るまでは、自分の元気を少しでも置いてこようと思っておりましたが、逆に元気をいただいています。

大変な時こそ「笑顔」と「元気」。心からそのように思う毎日を送っております。(Y)

